

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：情報科学

部会長名：大月 一弘

作成者名：大月 一弘、熊本 悦子、清光 英成

概要（2000字）

情報科学部会は、全学必修科目の「情報基礎」、専門基礎と同等の扱いである「情報科学」、教養原論である「情報の世界」という教育目的の異なる 3 つの授業科目を担当している。

情報基礎については、授業内容・授業計画を統一し、e-learning システムを用いた授業を行っている。2009 年度に実施した外部評価において、外部評価委員から「教授内容を毎年変化させる」こと「これまでの授業運営の経験が十分に生かされている」ことなどについて高く評価を受けているが、2011 年度も部会幹事を中心として授業内容の企画・整備を行った。毎授業ごとに部会独自で作成した web アンケートを実施している。同アンケートの分析、ならびに I T 利用に関する社会のニーズや動向の分析をもとにカリキュラムを改善した。2012 年度の授業についても、同様の分析に加えて、図書館との間で打ち合わせを行い、授業内容の改善を図った。

また、GPA の導入・成績評価への「秀」の追加されることに伴い、成績評価の方法について検討を行った。同科目の目的が「神戸大学の学生としての一定以上のレベルにすること」であり、個々の学生の能力を伸ばすようなカリキュラムとするよりは、全学生を一定レベルにすることを最優先とすべきであるという点を考慮して「合否」の二段階の成績評価に変更することとした。

また、コンピュータ実習環境の点検を行い次の 2 点を改善した。

1. マウスの反応の不具合に対処するために、K501, K502 教室の机に光マウス対応のシートを敷設した。
2. 大人数が同時にパソコンを操作する際に、一部のパソコンが操作不能になることがあることを発見し、情報基盤センターに連絡するとともに、同センターと連携して不具合の対応を検討した。

情報科学については、学部・学科単位のクラス編成であり、学部等の専門基礎としてふさわしい科目となるように、各学部の特性に応じて教授内容を工夫して

教養原論は、一般教養科目であることを考慮して、各教員の行っている最新の研究成果を授業に反映できるようにしている。昨年度の学生の授業評価（総合判断）の点数が低かったクラスにおいて、授業評価アンケートに書かれていた要望に基づき資料の配布をしたところ授業評価（総合判断）の点数が大きく上がり、授業が改善された。

様式 2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況)

共通教育部のCPの作成にあたり、授業担当者との間で本部会が担当する3種類の授業科目の趣旨を確認した上でCPを作成した。ならびに、各授業の内容が趣旨にそっていることを確認した。

また、全学必修科目である情報基礎では、成績評価基準を全クラスで統一し、出席、小テストおよび課題の採点結果に基づいて公平に採点した。

根拠資料

共通教育部CP

情報基礎 e-learning ページ (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2011/>)・同スタッフ用ページ

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては、前年度の授業分析を踏まえ、講義内容の見直しを行い、Webテキストの内容を更新した。情報科学については、日々進展している領域であるため、複数の参考書や最新のトピックを取り上げ、SPI試験等にも対応できる講義を行った。教養原論については、担当教員の研究分野における最新のトピックを含めた授業を行った。

根拠資料

情報基礎: Webテキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2011/>)

情報科学・教養原論: シラバス, パワーポイント資料, 記入式配付資料

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

GPAの導入・成績評価への「秀」の追加されることに伴い、成績評価の方法について検討を行った。この結果、情報基礎に関しては、成績評価を「可否」とすることが適正であると判断し、2012年度から評価方法を変更することとした。

根拠資料

全学共通運営協議会資料・全学共通部教務専門委員会資料

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況)

情報基礎については各クラスの履修者数に応じて、教員 2 名または 3 名およびティーチングアシスタント 2 名または 3 名で授業を担当し、1 人 1 台のコンピュータを割り当てた。授業を実施するに当たっては共通の手順書を準備し、教員が異なってもすべてのクラスで同じ質の授業を実施できるようにした。

講義科目である情報科学においても、一部のクラスにおいて、15 回の授業のうち 2 回をコンピュータ教室を利用した実習とし、講義内容を機器操作実習により確認する学習を行った。

教養原論に関しては、教員持ち込みのノート PC を用いてスライドやビデオ、Web テキスト等の教材と情報機器を活用した講義を行った。

根拠資料

情報基礎：各クラスの受講者数一覧表、担当者一覧表および座席表

Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2011/>), 授業手順書

情報科学・教養原論：シラバス、自己点検・評価報告書 (様式 1)

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

情報基礎のテキストは全て Web ページ上に置いてあり，随時閲覧できる。また，その中で，それぞれの単元ごとに「ちからだめし」(小テスト)を設けており，随時，繰り返しテストを受ける事ができる。また，ちからだめしの結果は自動採点され，各学生は自分の成績を閲覧できるとともに，担当教員は担当する全ての学生の状況を確認できるため，各学生に対して適切な指導を行なう事が出来る。

根拠資料

情報基礎：Web テキスト (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2011/>)

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

情報基礎については成績評価基準を全クラスで統一し，出席，課題の採点結果に基づいて公平に採点した。情報科学および教養原論については，シラバスの通り配付資料の内容を基にした演習問題，レポート課題を複数回実施し，それぞれ授業の後半で解説，回答例を配布した。

根拠資料

情報基礎：課題レポートの解答メール，オンライン小テスト，成績集計システム (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2010/> 教員用ページ) による自動採点
情報科学および教養原論：シラバス，授業評価アンケート，自己点検・評価報告書(様式1)

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては，授業回数が少ないことに不満が多く，学生の評価に影響を与えていると考えられるが，授業評価(総合判断)が3.8であり，回数以外に対しては高い評価であると考えられる。

情報科学および教養原論「情報の世界」の評価については授業評価(総合判断)が概ね4.0を超えており，何れも教育の成果や効果が上がっているものと思われる。特に，教養原論においては，本部会の寺田准教授が2011年度前期のベストティーチャー賞を受賞するなど高い教育成果をあげている。また，昨年度評価の低かったクラスにおいても，総合判断が3.3から3.9と上昇しており成果が上がっていると考えられる。

根拠資料

学生授業評価アンケート

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言(例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担

任制等が考えられる。) が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

情報基礎に関しては、情報基盤センターが提供するメーリングリストサービスを利用して、クラスごとに学生から電子メールで担当教員およびティーチングアシスタントに対して随時、質問が受け付けられるようになっている。また、他の科目においてもオフィスアワーに関しては教員の Web ページ、シラバス等に掲載している。

根拠資料

シラバス

情報基礎ホームページ (<http://johokiso.center.kobe-u.ac.jp/2011/>)